

変化を生き抜く「軸」と「修正力」の育成 ①

自己肯定感を高める

教育活動の

トータルデザイン

本誌8月号では、10年後を見据えた人材育成における指導の観点の1つとして、

変化の激しい社会を生き抜くために必要な、変化に流されない「軸（をつくる力）」と

その「軸」に基づいて変化に柔軟に対応する「修正力」の育成を取り上げた。

今号から、その2つの力を高校教育においてどのように育んでいくのかを考えていく。

Q. 8月号の特集へのご意見・ご感想をお聞かせください。

◎職場環境が変わり、異文化とのギャップに直面した鳥山恵美子さん、過疎の町という現実を突き付けられた大南信也さん、リストラという想定外の変化に遭遇した花輪陽子さん、それぞれ違うケースではあったが、いずれの方も「変化」は「学び」のチャンスであり、「変化」は「成長」の促進剤であることを伝えてくれた。「変化」は成長の栄養素であることを十分認識し、積極的に楽しんで消化吸収できる教師でありたいし、そういう生徒を育てたい。
(岩手県)

◎変化の時代に求められる修正力。その力を身に付ける前に、変化に対応できる基本・基礎のような土台となるべき力や教養が必要であることは誰もが疑わないだろう。ただ、基礎力の育成が指導の中心にな

っているのも事実かと思う。私たち教師が生徒の発言、発想や行動力をもっと信じて、見守り、そして、時には仕掛ける勇気を持たなければならぬと感じた。
(東京都)

◎大南信也さんが言われた「創造的過疎」という言葉に感銘を受けた。自分の軸が明確であれば、地方の持続的成長の可能性もあると思うし、自校の生徒・保護者の安定志向の中に、地方を愛し、支える人材としての誇りを感じる時もある。この人材と「創造的過疎」がうまく連携できればよいのではないか。確固たる軸の基礎は、生徒の仲間づくりの力と自己肯定感、変化に気付く力だと思う。
(徳島県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2014年8月にウェブとファクスで実施。有効回答数は56（2014年9月15日時点）

8~2月号の共通テーマ

10年後を見据えた人材育成

8月号で
見えてきたこと

- ◎今後10年間も、変化の激しい社会であることが予想される
- ◎そのような社会を生き抜くためには、自分の中に、変化に流されない「軸」（目標や目的、信念、こだわりなど）を持つこと、そして、その「軸」に基づいて柔軟に変化に対応する「修正力」が求められる

本号のテーマ

高校教育において、生徒の中に「軸」を育み、「修正力」を高めるために必要な指導とは？

まず必要なのは、「軸」を支える「自己肯定感」と変化（＝修正機会）に気付ける「多角的な視点」の育成

座談会【P.6~9】



大阪産業大
教養部教職課程
准教授
定金浩一



栃木県立
栃木高校
篠山秀志



長野県・
私立
エクセラン高校
吉見繁憲

事例を通じて、「自己肯定感」と「多角的な視点」を
生徒に育む指導を考える

学校事例【P.10~21】

北海道・私立
札幌日本大学高校

- ◎進路学習や定期考査など、様々な活動を通して生徒にPDCAサイクルを繰り返させ、その積み重ねを可視化することで、自己肯定感を高める
- ◎進路学習における生徒同士の話し合い、調べ学習、教師からの様々な情報提供を通じて、生徒の視野を広げる

神奈川県・私立
聖セシリア女子
中学・高校

- ◎学校行事や部活動など、生徒自身が活躍する場を通して、「自分も出来る」という自己効力感を高める
- ◎学習計画とその達成状況を可視化することで、自分自身を客観的に振り返る視野の広さを身に付けさせると共に、目標を達成したり、学習計画の修正がうまくいったりすることで、生徒の自己肯定感が高まる

長崎県立
長崎西高校

- ◎自律を体現する場を日常生活や行事に設けることで、自己肯定感を高める
- ◎生徒を褒めるだけでなく、「君たちの力ならもっと出来る」などと声を掛け、生徒の悔しい思いを向上心に結び付ける